

田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館 平成17年度展覧会

田辺市立美術館

H17.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H18.1月	2月	3月
	①特別展 2005年 両洋の眼 4/23(土)～6/12(日)	展示替のため休館	②特別展 夏休み わかやま美術探偵団 7/2(土)～9/4(日)	展示替のため休館	③小企画展 川口軌外の作品を中心に 9/17(土)～11/27(日)	展示替のため休館	展示替のため休館	④館藏品展 さまざまな技法・手法 12/10(土)～ H18.1/29(日) 年末・年始休館 12/27～1/4	展示替のため休館	⑤特別展 小林和作 展 2/11(土・祝)～ 3/26(日)	



JR紀伊田辺駅から明光バス
「新庄病院前」下車、徒歩5分。

〒646-0015
和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770
FAX.0739-24-3771

田辺市立美術館分館 熊野古道なかへち美術館

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H18.1月	2月	3月	4月
①館藏品展 わたしたちの晩花・ 凌雲展 5/1(日)～6/19(日)	展示替のため休館	②特別展 夏休み わかやま美術探偵団 7/16(土)～9/4(日)	展示替のため休館	③館藏品展 渡瀬コレクション展 9/23(金)～ 10/16(日)	展示替のため休館	④館藏品展 海と山の花展 11/3(木)～ 12/11(日)	展示替のため休館	⑤館藏品展 野長瀬晩花 展 1/6(金)～ 2/19(日)	展示替のため休館	⑥館藏品展 渡瀬凌雲 展 3/11(日)～ 4/9(日)	



JR紀伊田辺駅から龍神バス
「なかへち美術館」下車。

〒646-1402
和歌山県田辺市中辺路町近露892
TEL.0739-65-0390
FAX.0739-65-0393

編集後記

このたび田辺市立美術館広報紙「ORANGE」の編集に当たって、多くの皆様のお力添えによって発刊に至ることができたことを、深く感謝いたします。思えば本紙の企画・編集がスタートした時はまだ2つの美術館でしたが、今では本館・分館となりました。その歩みをこれからの「ORANGE」紙面を通じてお伝えしていければと思います。

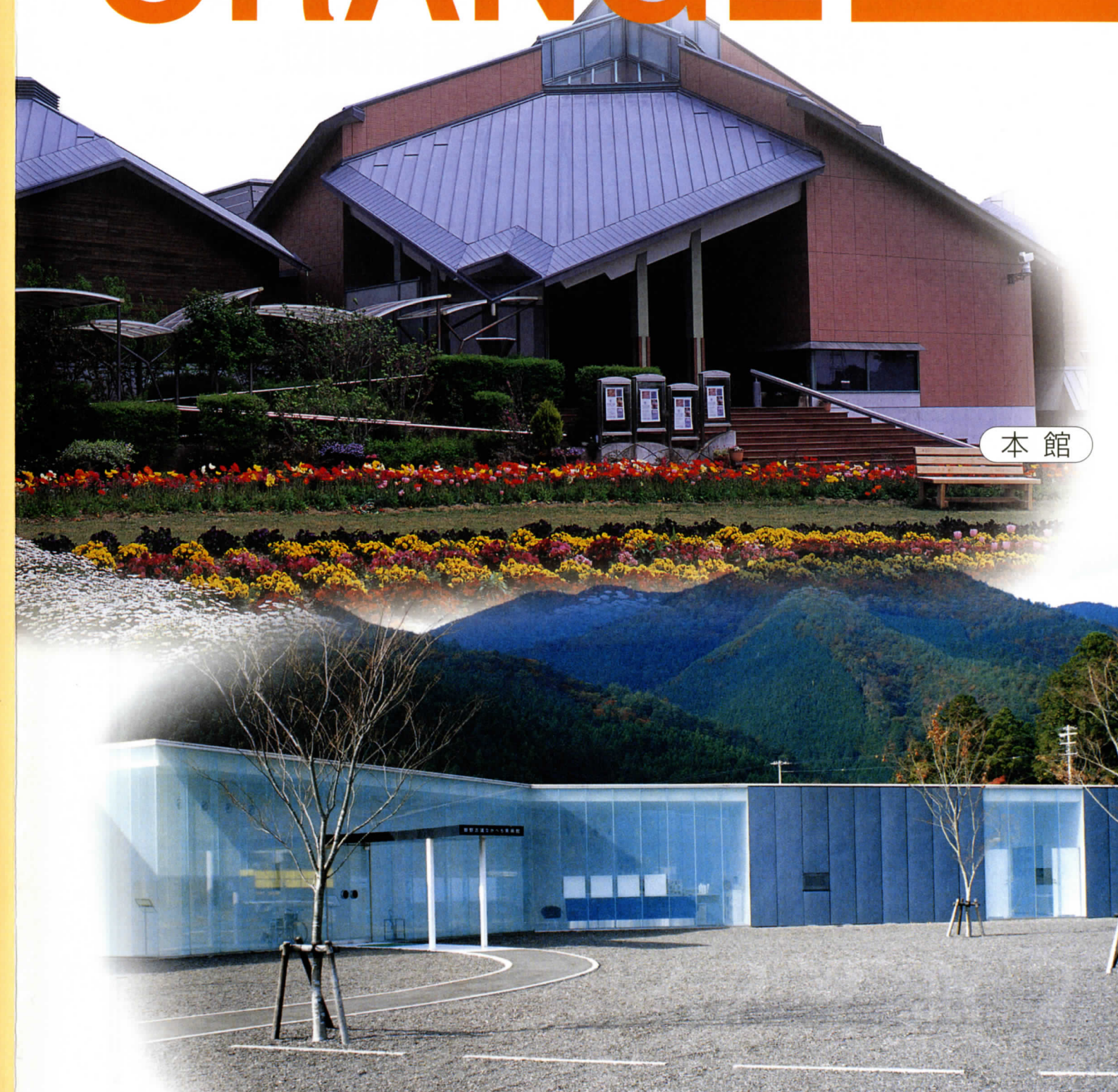
(分館・K.O)

田辺市立美術館NEWS ORANGE Vol.1

発行年月日：平成17年6月1日
編集・発行：田辺市立美術館
熊野古道なかへち美術館

ORANGE

田辺市立美術館NEWS
Vol.1



本館

分館

田辺市立美術館は5月1日より本館・分館として新たなスタートをきりました。これを機に広報紙を発行します。名称「ORANGE」は紀南地方の陽光のもとから、新鮮で、かぐわしく、実り多い内容の紙面を刊行することを目標につけたものです。これからもよろしくお願いたします。

展覧会紹介

田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館・和歌山県立近代美術館三館合同特別展

「夏休み わかやま美術探偵団」

この展覧会は「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録一周年を記念して、和歌山県立近代美術館、田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館が共同で行う企画展です。約200年前の文人画から近・現代作家の作品まで、約200点の作品を11のテーマに分けて紹介します。

展覧会構成

- (A) 保田龍門の旅行トランクー海を渡った芸術家の夢(3館を巡回)
大正時代、兄や地元の実業家たちの援助を受け、アメリカを経てヨーロッパへ美術の勉強に行った保田龍門。今とは違って海外留学がとても大変だった時代を訪ねます。
- (B) 原勝四郎、ふるさとの海のほとりへ(田辺市立美術館・和歌山県立近代美術館)
"絵を描きたい!"ヨーロッパでの苦しい旅路の果てに、原勝四郎がたどり着いた場所は故郷の海や山でした。原が描いた白浜半島を歩いてみませんか。
- (C) 川口軌外が残したパリ時代の写真から(和歌山県立近代美術館・熊野古道なかへち美術館)
大正時代、フランスに渡った画家・川口軌外が残した数多くの写真。そのなかの一枚の写真を手がかりに、当時の画家たちの夢を探ります。その頃川口軌外が描き、長いあいだカリフォルニアに渡っていた作品13点も初公開。
- (D) 「稲むらの火」と浜口陽三の《パリの屋根》(和歌山県立近代美術館・田辺市立美術館)
津波から村人たちの救ったことで知られる「稲むらの火」。この稲むらの火と世界的に有名な銅版画家・浜口陽三にはあるつながりがあります。
- (E) こんなところがあったらなあ。文人たちのこころの絵(田辺市立美術館)
車もバスも電車もなかった時代、旅して絵を描くのはとても大変でした。そんな時代、「こんなところがあればいいのになあ」といういろいろな気持ちを描いた絵がありました。文人画家の"想い"を探します。
●立派なひとなら絵もうまい!?
●絵の中を旅する 一季節がわかるー
●絵の中を旅する 一シーンがわかるー
●旅先でみたほんとうの景色
●あこがれの中国、文人画のふるさと
- (F) いろんな画家のいろんな旅(田辺市立美術館)
画家たちはいろんな旅をします。いい景色を描く旅、「いい所だったなあ」と思い出しながら描いたり、「こんな場所なんだろうなあ」と思いながら描くことも……
●いろんな旅を描く
●文人画家として生きよう 一日高昌克の"想い"ー
●那智の滝 聖地への旅
- (G) 14歳でふるさとを離れて一野長瀬晩花の著折峠(熊野古道なかへち美術館)
著折峠の向こうに待つ大きな世界へ。明治時代、晩花は絵を学ぶため、14歳でこの峠を越え大阪に出ました。晩花の新しい世界はどんな風に広がったのでしょうか。
- (H) ふるさと熊野へ帰ろうー渡瀬凌雲、心の原風景(熊野古道なかへち美術館)
長野県に生まれながら、心から離れなかった熊野、中辺路。凌雲の思いは19歳にしてようやく実現します。ふるさとへの思いを絵に託し、凌雲はどんな旅をしたのでしょうか。
- (I) 津荷小学校でみつけた浜地清松とアメリカ(和歌山県立近代美術館)
明治の末に、兄を頼って渡米し、カリフォルニアで働きながら画家を志した浜地清松。出身校の津荷小学校(和歌山県東牟婁郡串本町)に飾られていた油彩画や客船の模型が物語るものは?
- (J) 歩こう。明治・大正の和歌山のまちー大亦新治郎の描いたわたしたちの知らない和歌山(和歌山県立近代美術館)
日本画家・大亦親風(かんふう)として活躍する前、若き日の大亦新治郎が、明治末から大正時代に描いた和歌山市内の多数のスケッチ。それらをもとに和歌山の風景を探索します。
- (K) 旅を抱いてー村井正誠の終わらない留学(和歌山県立近代美術館)
多くの画学生たちが留学していた昭和の初め、パリに渡った村井正誠の得たものはなんだったのでしょうか。帰国した後も、留学中に会った風物を繰り返し描き続ける画家のこころに宿った旅の生命を探しましょう。

会期・会場／《田辺市立美術館》 平成17年7月2日(土)～9月4日(日)
《和歌山県立近代美術館》 平成17年7月16日(土)～9月4日(日)
《熊野古道なかへち美術館》 平成17年7月16日(土)～9月4日(日)

開館時間／《田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館》
午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
《和歌山県立近代美術館》
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日／月曜日、祝日の翌日(7/19)
展示替え期間＝田辺市立美術館:7/14・15、8/8・9・10
和歌山県立近代美術館・熊野古道なかへち美術館:8/8・9・10

主催／「夏休み わかやま美術探偵団」展 実行委員会
和歌山県立近代美術館・田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館

助成／(財)地域創造

協力／カメラの西本

料金／《和歌山県立近代美術館》 一般:500円(400円) 大学生:300円(250円)
《田辺市立美術館》 一般:300円(240円) 大学生:150円(120円)
《熊野古道なかへち美術館》 一般:210円(160円) 大学生:150円(120円)
()内は団体割引料金
★高校生以下、65歳以上は無料です。(減免措置もあります。詳しくは各美術館まで)



保田 龍門
《ティツィアーノ〈キュービットの教育〉部分模写》

- 関連企画／●ためてみよう メゾチント
カラーメゾチント(銅版画の技法のひとつ)で世界的に有名な浜口陽三の作品を紹介するにあたって、メゾチント技法のワークショップをおこないます。
◎ナビゲーター＝橋爪玲子
田辺市立美術館 8月14日(日)、20日(土)、28日(日)
(いずれも午後2時から、入館券が必要です)
- 鈴木昭男 点音in和歌山
音の芸術家。鈴木昭男さんと一緒にたどる和歌山の音。戸外にポイントを設置し、まちなかや野山の音に耳を澄ませます。展示、パフォーマンスなども予定。
【田辺市立美術館】
◎パフォーマンス 田辺・音のたどり
8月13日(土)午後4時～(午後3時30分開場)
準備のため午後2時より一時閉館します。午後4時以降は入館できません。
【熊野古道なかへち美術館】
◎点音+作品展示 7月16日(土)～9月4日(日)
◎パフォーマンス なかへち・音のたどり
8月21日(日)午後6時30分～展示室は午後5時で閉室



野長瀬晩花
《新芽ふく頃》

岡田米山人
《歳寒三友》

田辺市立美術館

2005 両洋の眼 新美術主義の画家たち(4月23日～6月12日)

現在第一線で活躍する画家たちの新作を展覧する『両洋の眼』を開催しています。これからの新しい絵画の表現の可能性をもうかがうことの出来る数少ない機会です。

「国際博物館の日」記念公開対談を開催しました。

5月7日(土) 午後2時～ 当館研修室

両洋の眼委員で毎日新聞美術記者の石川健次さんと出品作家の舘野敦さんにおこしいだいて、現代の絵画の状況や制作について貴重な話をうかがうことができました。

※「国際博物館の日」

国際博物館会議(ICOM)の呼びかけで毎年5月18日の前後に博物館の役割をアピールする事業が世界の博物館で行われます。今年のテーマは「諸文化をつなぐ博物館」でした。

開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日／毎週月曜日・5月6日(金)

主催／田辺市立美術館・両洋の眼委員会

協力／東邦アート・東京マリエ美術

観覧料／一般 600円(480円)

大学・高校生 300円(240円)

中学・小学生 150円(100円)

※()内は20名以上の団体料金

土曜日は小・中学生及び同伴する保護者や指導者の観覧料は無料

一部展示替を行います(前期:4月23日～5月15日 後期:5月17日～6月12日)

熊野古道なかへち美術館

わたしたちの晩花・凌雲展 一市町村合併によせて(5月1日～6月19日)

5月1日の市町村合併を機に、改めて「中辺路町出身の野長瀬晩花と渡瀬凌雲」をアピールしたく思います。新しいスタートにふさわしい新出作品に加え、地元で今も大事にされている作品や資料を紹介しています。

開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日／毎週月曜日・5月6日(金)

主催／熊野古道なかへち美術館

観覧料／一般 210円(160円)

大学・高校生 150円(120円)

中学・小学生 100円(70円)

※()内は20名以上の団体料金

土曜日は小・中学生及び同伴する保護者や指導者の観覧料は無料